

群馬県

定数：5名

立候補者数：6名



氏名 小保方 祐貴

都道府県士会 群馬県

年齢 37

勤務先名称 東前橋整形外科病院



氏名 吉田 剛

都道府県士会 群馬県

年齢 63

勤務先名称 高崎健康福祉大学

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

<協会・士会役員歴>

平成30年～現在 (一社)群馬県理学療法士協会 地域局スポーツ推進部 部員
令和2年～現在 (一社)群馬県理学療法士協会 代議員

<立候補の趣旨>

この度、代議員選挙に立候補した小保方祐貴です。
私は理学療法士免許を取得後、現職に就職して現在に至るまで、整形外科やスポーツ領域での臨床、教育、研究に携わって参りました。また、群馬県理学療法士協会においても、スポーツ関連部局での活動や代議員を務めさせていただいております。

さて、今回の代議員選挙の立候補趣旨をご説明させていただきます。

①生涯学習制度(登録理学療法士制度、認定・専門理学療法士制度)について、適切な改定を訴えていきます。

②理学療法士の役割・働きが多様化する中で、協会の役割として会員へ研修等の機会を与え、職域拡大を推進し、理学療法士の社会的地位向上のための活動を訴えていきます。

③協会の平均年齢世代(約35歳)の代議員が群馬県内にいない状況です。そこで、県内の若手理学療法士を代表して、現場の目線で協会に声を届けます。

以上より、会員の声を協会に伝える強い思いから立候補をした次第です。他の候補者の方々と比べて、協会・士会役員歴は浅く、若輩者ではありますが、上記の理由にご共感いただき、代議員の大役をお任せいただければ幸いに存じます。

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

1991年～2019年：群馬県理学療法士協会学術担当理事
2013年～2019年：群馬県理学療法士協会副会長兼任
1998年～現在：日本理学療法士協会代議員

2019年までの29年間、群馬県の学術担当理事として、県学会、理学療法群馬の創刊、生涯学習システム対応などに尽力してきました。その過程で県の実情を協会本部に伝え、より会員の望むサービスの提供や理学療法士全体の質の向上に寄与する必要があると感じ、今まで27年間代議員を務めてきました。協会組織が大きく変わり、分科学会化し、生涯学習システムが始まる中、今後の卒後教育体制充実のためにも、協会の意思決定機関である代議員総会に出席し、きちんと意見が述べられるよう努めたいと思っております。よろしくお願いいたします。



氏名 渡辺 真樹

都道府県士会 群馬県

年齢 51

勤務先名称 公立七日市病院



氏名 柴 ひとみ

都道府県士会 群馬県

年齢 56

勤務先名称 群馬医療福祉大学

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

公益社団法人日本理学療法士協会代議員
平成30年度～現在（3期）
一般社団法人群馬県理学療法士協会理事
平成29年度～令和4年度：事務局長（3期）
令和5年度～現在：会長（1期）

少子高齢化や人口減少により、社会構造が大きく変化しています。それに伴い、理学療法士の職域の拡大は必須であり、教育システムの構築も重要と考えます。また、新しい取り組みには法制度の見直しも必要となり、高い組織率に支えられた政治力も必要です。こうした状況を踏まえ、県協会の状況を中央に伝え、中央からの情報を県に活用する役割を担い、全力を尽くしたいと考えています。どうぞ宜しくお願い致します。

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

平成21年4月～平成25年5月 群馬県理学療法士会 ブロック局中毛ブロック長
平成25年6月～現在に至る 群馬県理学療法士協会 理事（ブロック局）

超高齢化社会を迎える今、地域包括ケアシステムが整備されることと同時に主役となる生活者の人生や考え方を尊重し、その人らしく人生を楽しむ方法を見つけ出すことが重要となります。そのような中、群馬県理学療法士協会において地域で活躍する理学療法士の横の繋がりを強化する目的や顔の見える関係性の構築に携わってきました。今後は、今まで以上に地域の力を結集し、多職種とともに課題解決に向けて取り組む必要があると思っています。そのためには個々人の理学療法士としての質を向上させることも必須と考えます。微力ではありますが、日本理学療法士協会と群馬県理学療法士協会の橋渡しとして寄与できるよう代議員として立候補させていただきます。



氏名 中川 和昌

都道府県士会 群馬県

年齢 45

勤務先名称 高崎健康福祉大学



氏名 佐藤 江奈

都道府県士会 群馬県

年齢 48

勤務先名称 群馬大学医学部保健学科

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

平成25年4月～ 群馬県理学療法士協会 研修部 部員（～平成30年3月まで）
 平成31年4月～ 群馬県理学療法士協会 スポーツ推進部 部長（～令和3年6月，以降部員）
 令和3年6月～ 日本理学療法士協会 スポーツ理学療法の全国展開・推進運営部会 部会員（～令和5年3月）
 令和3年8月～ 日本スポーツ理学療法学会 理事（～令和4年6月）
 令和4年4月～ 日本理学療法士協会「Post-OSCE作業部会」 部会員
 令和4年7月～ 日本スポーツ理学療法学会常設委員 理学療法標準化検討委員会 委員長
 令和5年4月～ 日本理学療法教育学会 学術大会委員

この度、日本理学療法士協会代議員に立候補しました中川和昌です。現在、大学で理学療法学科の教員として勤務している傍ら、外来スポーツ理学療法、スポーツ選手の外傷・障害予防、小中学校における学校保健、地域住民の健康増進を中心に携わっています。東京2020オリンピック・パラリンピック大会が終了し、国内のスポーツ理学療法は国際的な視点のみならず地域に根付いた活動、パラスポーツの発展等、色々な側面で可能性が広がっていると実感しています。目の前に広がっている可能性を実現化するために、できることを一つずつ、計画的に組織立てて進めていきたいと思っています。また理学療法教育はまだ未完成であり、全人的アプローチやアーティスティックな側面の教育も大事にしつつ、教育的な学術面の発展も必須だと感じています。理学療法の可能性を広げつつも、質の高い教育現場・内容を整えていく必要があります。社会は変化し続けています。これからの理学療法を引き継いで様々な役割を担っていく立場として、自身の専門分野のみならず、常に対象者に寄り添う理学療法士の素晴らしさを伝え引き継いでいくための組織づくりを、他職種との協同、国際的な動向にも気を配りながら、県内・国内の両面で皆様と一緒に考えていきたいと思っています。

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

私は、群馬県理学療法士協会（GPTA）において庶務部、福利厚生部の部員や部長を経験し、2019年からワークライフバランス委員を務め、2021年に部への昇格とともに事務局理事に就任、2023年からは事務局長を務めています。庶務部や福利厚生部の時には、会員への情報周知や会員同士の顔の見える関係性の構築に向けた事業に携わることで、士会の運営の実務と人とのつながりの重要性を知ることができました。理事就任後は、県士会の運営に取り組んでいます。群馬県においては、養成校が20名の1校であった時から、現在6校となり、年間300人以上が輩出されるようになりました。よって県内の会員数は現在2000人を超え、理学療法士の勤務施設や勤務者数は増加し、県内における理学療法の提供は充実してきております。大組織となったことから、県士会の果たすべき役割も大きくなり、部局数の増加や充実化など、活動内容や範囲も変化していると思います。また、会員数に応じるべく専門性や系統的な対応、専門家による対応も必要となり、法人化、事務所の設立、事務員の雇用、税理士や社会保険労務士との契約など充実化を図っています。会員同士の関係性においては、会員数が大きく増加したこと、最近ではコロナ禍によるオンライン化もあり顔の見える関係性の希薄化、休会者数の増加を認め、会員数の停滞を認めています。また、群馬県においては、初代の方々が定年を迎えるタイミングを迎えており、退会者が増えつつあります。現在のGPTAを築いてくださった初代の方々と関係をつなぎ続け、今後についてのご指導をいただけるような関係性の継続とともに、世代交代による一工夫を盛り込むことにより、事業の継承と新たな魅力をもつ士会の運営を行っていきたく考えます。また、理学療法士として数の充実のみならず、質や社会性を備えた人材の育成に向けた活動を行っていきたく考えます。それらの結果として会員数の増加、士会事業への積極的な参加とさらなる組織の充実化をJPTAとともに目指したいと考えます。